

につなげるか

本町議会では、6月定例会の中で「産業振興について」と題して討論会を行いました。私たちの町は大山山麓の肥沃な大地や良好な魚場を有する農林水産業の活発なまちではありますが、開山1300年を控え、いかに観光や他の産業の振興につなげるか、今こそ問われています。

各議員の意見

大杖議員

第一次産業は、生産量の増大から付加価値の高い生産物に集中する必要がある。

野口俊議員

農業では、農地の集約化と新規就農者の確保が必要である。漁業では栽培型漁業に重点をおくべき。

大森議員

阿弥陀川水系の良さを見直して、全域にブランド米ができないか。農家への所得補償や生産物への価格補償も必須である。

西山議員

国史跡・大山寺旧境内は国立公園にあるという環境を大いにPRすべき。

野口昌議員

農業分野で所得補償制度が導入される。町も積極的に協力すべき。

吉原議員

生産物の6次産業化を推進して観光と農林水産業の2つの領域を連携し振興をはかるべき。

西尾議員

本町の暮らしやすい環境をもっとアピールし、米子のベッドタウン化をめざすべき。

森本議員

消費者に求められているものは何か。外に目を向けた高付加価値商品の開発に力を入れるべき。

門脇議員

産業振興は町づくりの一部、まちづくりは人づくり。人材育成という観点を持ちながら、ネットワークの強化が必要だ。

近藤議員

時間がかかっても大山に一流の工芸品をつくりたい。また、海や山での体験型観光を充実させたい。



新規就農者に育苗指導

米本議員

農業研修をさらに充実して、後継者を残さねばならない。基幹産業が衰退すれば他の産業にも影響が出る。

池田議員

不耕作地が増えたと獣が圃場を荒らす。この厄介ものを食肉処理して加工品として本町の産物にしていきたい。

岡田議員

体験型観光の実施で観光客を通過型から滞在型に。廃校舎や古民家の再利用でサテライトオフィスの誘致を。

熱中討論

いかに産業振興



山開き前夜祭でにぎわうたいまつ行列

大原議員

町の賑やかさをイメージ戦略として発信したい。大山町旗の山・川・海の豊かな環境を全産業分野で振興につなげたい。

加藤議員

町の恵まれた土壌を活かしきれしていない。もつと差別化した高付加価値製品の開発に支援すべき。またその販売戦略も強化したい。

こんな提言も…

野口昌議員

観光は大山が主体。縁結びのご利益がある切り口も考えてほしい。

大森議員

大山と仁王堂公園、妻木晩田遺跡、名和長年ゆかりの地、退休寺など、里部との連携が必要。

吉原議員

大山町のよさを伝えるボランティアガイドがもつと必要だ。

米本議員

大山の旅館で地元の野菜が出ているかというと出ていないのが現状。農業と観光のもつとタイアップが必要。

近藤議員

近年の山ガールのブームのうちに、一流の食材を使った一流の宿泊施設の整備が大事。

岡田議員

森林セラピーなど健康と観光の連携を。

西尾議員

福祉と人の交流がカギ。



にぎやかな観光地を目指して

討論会を終えて

議員全員が共通に認識していることは、農林水産業と観光業の連携がまだまだ足りないという点でした。その他、開山1300年に向けて、あらゆる産業との連携が必要です。またそのことが、地元の雇用を支える商業や製造業の振興につながります。人と人とのネットワークの強化が今こそ必要です。より賑やかで活力のある町づくりに私たち議会も提言を重ねます。

特集

弥生の風歌声サロン

～うれし 懐かし 中高年のオアシス～

健康寿命を伸ばすべく始まったこの歌声サロンは、大山口駅前鳥取西部農協大山口支所隣にて、毎月第1・第3水曜日、午後2時半から4時まで開かれています。参加は、自由です。



♪しあわせならほっぺたたこう

歌声サロンの始まりは

〔松原さん〕（大山区）

2010年の10月に、弥生の風で第1回を開きました。

当時は、近所の高齢者の方や、弥生の風のスタッフ、知り合いの賛同者など、4・5人から始まり、楽器もなくアカペラでした。

歌集もなく、手づく

りして充実させていき、キーボードを弾く人、三線（さんしん）を弾く人、カラオケを用意してくださる人が現れ、にぎやかになってきました。

その後、中海テレビが取材にきたり、新聞に投稿したりして、仲間を募り、今では30人以上が来られています。



松原さん



金田千賀子 (長田)

大山を離れて わかったこと

生まれも育ちも大山町の私は、ふと他の世界もみたくなりオーストラリアに2年間行き、今年の春に帰国しました。

向こうでも田舎が性に合い、2年間のほとんどを農場や田舎町で過ごし、多くの経験をしました。

でも農場での生活が、自分に一番大きな影響を与えたと思います。その生活の中で今でも印象に残っていることがあります。

ある日「あなたの故郷や暮らしを教えてほしい」と農場仲間での集まりで質問を受けたことがあります。私は正直戸惑いました。今まであまり意識してなかったのですが、大山町について私はあまり知らなかったんだと。



近藤忠史 (下前谷)

還暦の同窓会 に寄せて

九州の豪雨災害が連日のように報道され、自然への畏怖の念が強く感じられる昨今、私たち名和中学校第26期卒業生の同窓会が今年10月に計画された。

卒業以来45年の歳月が流れ、154名の同窓生も還暦を迎えて、一人ひとり己の歩んできた人生を振り返り、感慨深いものがあると思う。

前述のとおり日本各地から自然災害等のニュースが頻繁に聞こえてくることが、幸いにして当地では大きな災害の発生はなく、ここで生活できる幸せに日々感謝である。しかし、国際情勢は予断を許さない状況であることはご存知のとおりである。

このように、私たちを取り巻く環境は、厳しさを増しているわけだが、今後の同窓生諸氏のさらなる活躍と、充実した悔いのない第2の人生を送られることをお祈りし、再会を楽しみにしています。



岡崎恭介 (中池谷)

恥をかき、 汗を流す

少子高齢化で、人口が20年後には1万2千人と予測されています。集落・地域をどう維持して行くかという命題があります。

そんななか、地域自主組織の立ち上げがなされています。逢坂地区も「やらいや逢坂」を平成26年に設立し、今年で4年目に入りました。

将来の実感が湧かないなかで、暗中模索しながら、ふれあい祭り、朝市、カフェ、そば道場などの事業をしています。

行政も財政難、人手不足から住民サービスの低下は免れません。地域の課題を取り上げ、地域全体で共有し、行政に頼るだけでなく、自らが解決に向けて取り組む姿勢が大切かと思えます。

イベントは地域の人と人を繋ぐツールであって、地域の安全安心をどう維持していくかという命題を抱えながら、自主組織の活動に恥ずかしながら汗を流しているこの頃です。

あとがき

4月の改選後、議会、執行部とも新しい顔ぶれでの6月定例会が開かれました。一般会計補正予算も全会一致で可決され、新町政が動きはじめました。町民のみなさんの注目も集まったのではないのでしょうか。

そして大山開山1300年祭のプレ・イヤーを迎え、さらに第3回山の日記念全国大会の大山開催が決定し、全国から注目されていることと思います。議会、町執行部は前向きな議論を交わし、イベントの成功はもちろん、より良い町政へと進んで行かなければなりません。最後に、広報委員の一員としてわかりやすく、読みやすい議会だよりをお届けできるよう努めてまいります。(森本)

【発行責任者】

議長 杉谷 洋一

【広報常任委員会】

委員長 大原 広巳

副委員長 森本 貴之

委員 野口 俊明

委員 吉原美智恵

委員 近藤 大介

委員 米本 隆記

委員 門脇 輝明

委員 杉谷 洋一